

平成27年10月12日（月・祝）に、せんだいメディアテークで開催しました！

メインテーマ：

東北で進む「新たな挑戦」

- 東北では、震災復興に向けて、多様な主体（若者、女性、企業・NPO・自治体等）が連携して、「コミュニティの形成」や「産業・生業の再生」などの様々な分野で、震災前には見られなかった「新たな挑戦」が行われています。
- 本フォーラムでは、こうした挑戦に取り組まれている皆様をお迎えし、リレートーク形式で「取組の背景」や「込める思い」をお伝えしました。また、「新しい東北」復興ビジネスコンテスト 2015の表彰式も開催し、被災地の産業復興に繋がる「新たな取組」の数々をご紹介します。

当日は、約400名の皆様にお越しいただきました。

※今回のフォーラムの様子は協議会のウェブサイト (http://www.newtohoku.org/works_detail_013) および Facebook ページでも紹介しています。 (<https://www.facebook.com/newtohoku>)

「新しい東北」復興ビジネスコンテスト2015 表彰式

高木復興大臣の挨拶（大鹿復興庁審議官代読）の後、ビジネス部門受賞の17件（大賞1件、優秀賞7件、企業賞9件）の表彰とアイデア部門受賞者の紹介を行いました。また、ステージ後方では、受賞者の事業をパネルや商品の展示で紹介しました。



What's 「新しい東北」復興ビジネスコンテスト？

産業復興や地域振興に向け以下の部門を設定して実施。

- **ビジネス部門**：被災地で新たな事業に取り組んでいる方、被災により中断した事業を再開・復興した取組を募集
- **アイデア部門**：被災地事業者が抱える課題解決案を募集

「新たな挑戦」リレートーク

アイリスオーヤマ株式会社 大山代表取締役社長から「東北の強みを生かす経営」という題目で特別講演をいただいた後、コミュニティの形成や産業・生業の再生など、様々な分野で「新たな挑戦」に取り組まれている10組のスピーカーに登壇いただきました。取組の背景や込める思いを、聞き手である公益財団法人日本財団の青柳様とのトーク形式でご発表いただきました。

～参加者の声～

スピーカーの方の取組を身近に感じました。多くの取組を知ることができたかったです。

～リレートークにご登壇いただいた皆さま～

<聞き手>

青柳 光昌 氏（公益財団法人日本財団ソーシャルイノベーション本部 上席チームリーダー）

<特別講演>

大山 健太郎 氏（アイリスオーヤマ株式会社 代表取締役社長）

<第1部>

黒沢 修人 氏（NPO法人wiz 理事/COO）
今原 隆 氏（東北協同乳業株式会社 代表取締役社長）
中川 麗美 氏（福島県浪江町役場 復興推進課）
高橋 和良 氏（株式会社/ンザイファクトリー 代表取締役）
佐藤 正実 氏（NPO法人20世紀アーカイブ仙台 副理事長）

<第2部>

岩佐 彩音さん、佐藤 千咲さん（宮城県立多賀城高等学校 2年・1年）
山元 崇央 氏（一般社団法人ピースポート貝冨ボランティアセンター）
岩手 佳代子 氏（株式会社フカコラ美人 代表取締役）
佐々木 結子 氏（八戸市まちづくり文化スポーツ観光部 / 八戸ポータルミュージアム館長）
岡本 俊太郎 氏（my Japan ファウンダー）



「東北ライター塾」(「新しい東北」官民共同PR事業)

ニュースサイト「しらべえ」の編集長であるタカハシマコト氏を講師に迎え、「情報発信力で東北は変わる」という題目で講演をいただきました。後半は、「世界にも通用する究極のお土産」出品事業者をゲストに迎え、どうすれば商品がニュースになるかについて、議論いただきました。



「しらべえ」の編集長であるタカハシマコト氏を講師に迎え、情報発信力で東北は変わるという題目で講演をいただきました。後半は、「世界にも通用する究極のお土産」出品事業者をゲストに迎え、どうすれば商品がニュースになるかについて、議論いただきました。

Creative Summer Camp 「CM試写会・ジモト面白さ発見」(「新しい東北」官民共同PR事業)

「新たな東北の売り出し方」を30秒のCMで表現する「Creative Summer Camp 2015」の最終審査会で受賞したチームに登壇いただき、受賞CMが作られた背景を語っていただきました。後半は、東北新報の中島信也氏、銀河ライターの河尻享一氏と受賞チームのメンバーで「地域の魅力はどう切り取ればいいのか」というテーマのトークセッションを行いました。

myJapanが主催した「Creative Summer Camp 2015」は、全国から集結した若手映像クリエイターが30秒のCMで「新しい東北」の売り出し方を制作・発表する映像制作プログラムです。



「しらべえ」の編集長であるタカハシマコト氏を講師に迎え、情報発信力で東北は変わるという題目で講演をいただきました。後半は、「世界にも通用する究極のお土産」出品事業者をゲストに迎え、どうすれば商品がニュースになるかについて、議論いただきました。

What's 「新しい東北」官民共同PR事業?

復興庁が民間事業者の持つネットワークと連携することで、「新しい東北」をはじめとした東北の挑戦の成果を全国に「わかりやすく」情報発信

「新しい東北」シアター

福島県天栄村で放射能汚染を乗り越えようとする農家の姿を追った『天に栄える村』と仙台市立木町通小学校の生徒が震災当時の様子や思いを地域の方にインタビューした『木町の3.11ーふるさとへの想いー』を上映しました。

～参加者の声～

震災から4年目を迎えた今、震災を振り返る上で震災関連の映画上映は非常に有意義でした。

ボランティア・ワールドカフェ

約25名の大学生・高校生が参加し、今被災地で求められていることや、現地にいて感じる思いを盛り込んだ、同世代への「東北からのメッセージ」をワークショップ形式で考えました。



「究極のお土産」展示(「新しい東北」官民共同PR事業)

「新しい東北」官民共同PR事業「世界にも通用する究極のお土産ー新しい東北の挑戦ー」で一次審査を通過した112商品の中から、56品のお土産を展示しました。



懇親会

懇親会の中の企画として、復興支援インターンに参加した3名の大学生から発表がありました。若い世代に魅惑され、多様な来場者の皆様の間で懇親が見られました。



～ご協力・ご来場いただいた皆さま、ありがとうございました～

お問い合わせ

※ 当文庫会の開催については、復興庁からみずほ総合研究所へ委託しています。

新しい東北

検索

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局(みずほ総合研究所) 岩城・水野

E-mail: nt-info@mizuho-ri.co.jp TEL: 03-3591-8773 (平日9:30~17:30)

WEBサイト: <http://www.newtohoku.org/>

Facebook: <https://www.facebook.com/newtohoku>

主催: 官民連携推進協議会(事務局:復興庁)

